

完了相の教え方について

—— “～完” と “～过” の文法的使い分けと意味的分析を中心に ——

朱 継征

【概要】

動詞の後の“完”と“过”は意味論上（意味的に）どちらも動作の完了を表すことができるし、また、これらは文法上に置き換えることができる。このため、多くの文法学者は“完”と“过”をどちらも動作の完了を表す動相形式であるとしている。しかし、この両者は、文中において置き換えることができない場合もある。つまりこの両者は、文法上ある要因によって制約されており、意味論的にも違いがあることが分かる。この両者が文法上制約される要因、及び意味論上の相違点については、まだ詳細に論述したものがないようである。

本研究では次のように指摘する。“～完”は、線状過程の（ある）動作の完了を表し、“～过”は、独立したでき事としての動作の完了を表す。よって、その動作の線状過程を示す要素のある文、或いは脈絡の中では、“～完”しか使うことができず、また動作を、独立したでき事と見なす文、或いは脈絡の中では、“～过”しか使えない。その動作の線状過程を示す要素もなく、独立したでき事を示す要素もない文、或いは脈絡においてのみ、“～完”と“～过”を置き換えることができるのである。置き換えができる状況においても、この両者が動作の完了を表す場合、その暗に含まれている意味とそこから派生した意味には、たくさんの微妙な相違点があるのである。本稿では、“～完”と“～过”が文法上制約される要因およびこの両者の意味論上の細かい相違点を明らかにする。

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 問題点
4. 分析

- 4.1. 瞬間動詞との関係
- 4.2. 継続動詞との関係

- 4.2.1. 動作の所要時量を表す状語の場合
- 4.2.2. 動作完成の物量を総括する状語の場合
- 4.2.3. 動作完了の様態を表す状語の場合
- 4.2.4. 動作完了の難易度を表す状語の場合
- 4.2.5. 動作完了の将来を表す状語の場合
- 4.2.6. 動作完了の否定を表す状語の場合
- 4.2.7. 動作完了の可能を表す状語の場合
- 4.2.8. 動作完了の可能を表す補語の場合

- 4.3. コンテキスト、語用論的要因を加えた場合
5. まとめ

1. はじめに

中国語では、「動詞+完」或いは「動詞+过」を用いて動作の完了を表すことができる。例えば、

- (1) a. 我已经打完电话了。
(電話はもうかけ終わった。)
b. 我已经打过电话了。
(電話はもうかけた。)
- (2) a. 吃完饭, 我们去散步。
(食事が済んだら散歩に行こう。)
b. 吃过饭, 我们去散步。
(ご飯を食べたら散歩に行こう。)

しかし、文法上置き換えられない場合もある。

- (3) a. 这本小说我快看完了。
(この小説はもうすぐ読み終えるよ。)
* b. 这本小说我快看过了。
- (4)* a. 刚才小李来完了。
b. 刚才小李来过过了。
(さっき李さんが来たよ。)

例文(3)(4)の場合、なぜ“～完”と“～过”とが置き換えられないのか。なぜ(3)の場合には“～完”は言えるのに“～过”は言えないのか、なぜ(4)の場合には“～过”は言えるのに“～完”は言えないのか。そして(1)(2)の a、b の場合、“～完”と“～过”とは文法上置き換えられるが、果たして意味的には同じかどうか。もし違いがあるならば、一体どう違うのか。本稿はこれらの問題について考察し、完了相形式としての“～完”と“～过”の文法的使い分けを制約する要因と、両者の意味的相違を明らかにしたい。

2. 先行研究

2.1. 呂叔湘 (1980)

“过”：【助詞】表示动态的助词。(動相を表す助詞。)

①用在动词后, 表示动作完毕。这种“动+过”也是一种动结式, 但不同于一般动结式, 中间不能插入“得、不”也没有否定的说法。后面可以带语气助词“了”。

(動詞の後ろに用い、動作が完了したことを表す。この“動詞+过”の形は動結形の一つだが、普通の動結形とは異なる。間に‘得、不’を挿入できない。否定の言い方もない。後ろに語気助詞‘了’をともなえる。)

◇吃～飯再去(食事をすませてから行こう)◇赶到那儿,第一场已经演～了(駆けつけたときには第一場はすでに終わっていた)◇等我问～了他再告诉你(彼に聞いてから、君に知らせるよ)

②用在动词后,表示过去曾经有这样的事情。动词前可加副词‘曾经’。(動詞の後ろに用い「以前そのような事があった」ことを表す。動詞の前に副詞‘曾经’を付けられる。)

◇这本小说我看～(この小説は読んだことがある)◇去北京的事他跟我提起～(彼は北京に行くことを私に持ち出したことがある)◇我们曾经谈～这个问题(かつてこの問題について語り合ったことがある)◇我找～他不止一次(彼を訪ねたことは一度にとどまらない)◇我们走～不少地方,就是没有到～桂林(あちこち行ったが、桂林だけは行ったことがない)(p.216)(後略)
 (“完”についての記述はない。——筆者注)

2.2. 木村英樹 (1982)

一般的且つ基本的なアスペクト論の中で中国語のアスペクトを論じようとする場合、差し当たって問題にすべきものは「了」(~た)、「着」(~ている)、「起来」(~始める)、「下去」(~続ける)、「完」(~終わる)、「过」(~たことがある)という六種類の形式である (P24-25)。

2.3. 孔令达 (1986)

在现代汉语里,动态助词“过”有两个:一个“表示动作完毕”,……另一个“表示过去曾经有过这样的事情”,为了称说的方便,我们把前者叫做“过1”,把后者叫做“过2”(P272)。(現代中国語において、動相助詞の“过”は二つある。一つは「動作の完了を表す」、もう一つは「以前そのような事があったことを表す」。…便宜上ここでは、前者を“过1”と呼ぶことにし、後者を“过2”と呼ぶことにする。)

ぶことにする。)

2.4. 张晓铃 (1986)

过 a 表示动作的完成、结束。过 b 表示动作或状态曾经发生 (P48)。(“过 a”は動作の完成、結束を表す。“过 b”はかつて動作が行われ、或いは状態が発生したことを表す。)

2.5. 刘月华 (1988)

我们沿袭成说,……把表示经验意义的“过”称作“过2”,把表示完毕的“过”称作“过1”,……(P6)。(先行研究に従い、……経験の意味を表す“过”を“过2”と呼ぶことにし、完了の意味を表す“过”を“过1”と呼ぶことにする。……)

“过1”表示动作完结 (P7)。(“过1”は動作の完了を表す。)

3. 問題点

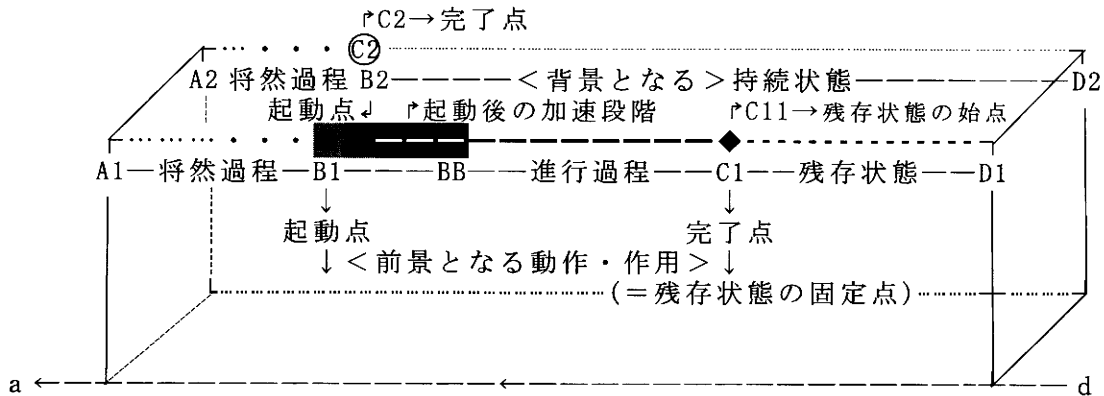
本稿では、孔 (1986) に従い、「完了」を表す“过”を“过1”、「経験」を表す“过”を“过2”と呼ぶことにする。

先行研究には、“完”も“过”も「aspect」助詞と見なし、完了相の形式として扱うものが少なくない。しかし、両者の相違について論じたものは少なく、その文法的・意味的相違はまだ明らかにされていない。

4. 分析

本稿では“完”と“过1”を共に動作の完了を表す「完了相」形式として扱う。「完了相」について詳しく説明するために、中国語における“動相”の全過程の「痕跡」は、次の【動相相関図】として図解することができる。定義上の「点」は図上でも「点」として表示し、「過程」と「状態」は「実線」或いは「点線」で表示してある。

“完”は動作の起動から完了までの「線」状過程の「終点」としての「完了相」を表す言語形式であり、これ



【動相相関図】

に対し、「過1」は動作の「起動点」と重なる「完了相」を表す言語形式であると考えられる。

つまり、【動相相関図】において、動作の起動から完了までの「線」状過程の「終点」としての「完了点」C1は「◆」で示し、言語形式としては“完”で表現する。これに対し、「起動点」と重なっている「完了点」は「◎」で示し、言語形式としては“過1”で表現するものとする。

“完”と“過1”の相違について論ずる場合、まず「経験」、「通過」などの意味を表す“過”を除外すべきであり、本稿では、完了相形式としての“完”と“過1”だけを考察の対象とする。

4.1. 瞬間動詞との関係

- (5) a. 上午小王来过了。
(午前中王さんが来たよ。)
* b. 上午小王来完了。
- (6) a. 刚才我去找过老王了，他不在家。
(さっき王さんの所へ行っただけで留守だった。)
* b. 刚才我去找完老王了，他不在家。

時間的幅のない瞬間動詞は事象を「点」としてしか捉えられず、その事象の起動・進行・完了の過程を「線」としては捉えられない。つまり、図1で示すBという起動相はCという完了相とほぼ重なっているため、動作の過程を一つのまとまった「点」として捉えるわけである。この場合、例文(5)(6)のように、瞬間動詞は“過”と結合して、動作の完了を表すことができるが、“完”とは共起できない。

4.2. 継続動詞との関係

- (7) a. 我打完电话了。
(電話し終わった。)
b. 我打过电话了。
(電話した。)
- (8) a. 我吃完晚饭了。
(晩ご飯を食べ終わった。)
b. 我吃过晚饭了。
(晩ご飯は済んだ。)
- (9) a. 这本小说我看完了。
(この小説を読み終えた。)
b. 这本小说我看过了。
(この小説を読んだ。)

文法上“完”と“過”はいずれも継続動詞と共起でき、動作の完了を表すという点においても、意味的相違はそれほどないように見える。しかし、実際には他の文成分、コンテキスト、語用論的要因等によって、構文上継続動詞は“完”或いは“過”の一方としか共起で

できない場合もある。次に他の文成分、コンテキスト或いは語用論的場面などの要因を付け加えて考察を進める。

4.2.1. 動作の所要時量を表す状語の場合

状語として述語動詞を修飾する「時量」(劉月華1988.P49)をここで「時量状語」と呼ぶことにする。

- (10) a. 硕士论文我三年才写完。
(修論を三年間でやっと完成した。)
* b. 硕士论文我三年才写过。
- (11) a. 这顿晚饭我两个小时才吃完。
(二時間もかかって晩ご飯を食べ終えた。)
* b. 这顿晚饭我两个小时才吃过。
- (12) a. 这本小说我一天就看完了。
(この小説を一日で読み終えた。)
* b. 这本小说我一天就看过了。

例文(10)～(12)の“三年”、“两个小时”、“一天”などのような状語は、動作が実行されてから完了するまでの所要時間を表すものである。このような時量状語に修飾されると、動詞の起動から完了までの過程は「線」としてしか捉えられない。この場合、文法上継続動詞は“完”と共起できるが、“過”とは共起できない。

4.2.2. 動作完成の物量を総括する状語の場合

- (13) a. 满满的一瓶酒精都蒸发完了。
(ビンいっぱいアルコールが全部蒸発してしまった。)
* b. 满满的一瓶酒精都蒸发过了。
- (14) a. 一大锅饭他全都吃完了。
(大釜のご飯を彼は全部食べてしまった。)
* b. 一大锅饭他全都吃过了。

(13)(14)の“满满的一瓶酒精”、“一大锅饭”などは物量を示すもので、“都”、“全都”などのような状語は、動作が実行されてから完了するまでの物量を総括するものである。このような状況語に修飾された場合、動詞の起動から完了までの過程は「線」として捉えることになる。

4.2.3. 動作完了の様態を表す状語の場合

- (15) a. 水桶里的水一滴一滴地漏完了。
(バケツの水は少しずつ漏れてなくなってしまった。)
* b. 水桶里的水一滴一滴地漏过了。
- (16) a. 他飞快地收拾完行李，就出门儿了。
(彼は大きく荷物をまとめると出かけて

いった。)

* b. 他飞快地收拾过行李, 就出门儿了。

(15)(16)の“一点一滴地”、“飞快地”などのような状語は動作の実行から完了までの「線」状の過程の様態を描写するものである。そして、この動作完了の様態を描写する状語によって、その動作の起動点から完了点までを「線」として捉えることになる。

4.2.4. 動作完了の難易度を表す状語の場合

(17) a. 这本小说我好不容易才看完。

(この小説をやっと読み終えた。)

* b. 这本小说我好不容易才看过。

(18) a. 毕业论文他轻而易举地就写完了。

(彼は、卒業論文をいとも簡単に書きあげた。)

* b. 毕业论文他轻而易举地就写过了。

(17)(18)の“好不容易”、“轻而易举地”などのような状語は実行されはじめた動作が完了点に達するまでの難易度を表すものである。当然、この動作完了の難易度を表す状語によって、その動作の起動点から完了点までを「線」として捉えることになる。

4.2.5. 動作完了の将然を表す状語の場合

(19) a. 饺子快要吃完了。

(ギョーザはもうすぐ食べ終わるよ。)

* b. 饺子快要吃过了。

(20) a. 现在都九点了, 电影也该演完了。

(もう九時すぎだから、映画も終わるはずだ。)

* b. 现在都九点多, 电影也该演过了。

例文(19)(20)の“要～了”、“该～了”は朱(1993.1995.)では将然相形式として扱っている。将然相形式と“完”を同時に使うと、「開始している動作は実際には完了していないが、動作完了の実現態勢に入っている」という文法的意味を表す。つまり、動作の起動点から完了点までを「線」として捉えることになる。

4.2.6. 動作完了の否定を表す状語の場合

(21) a. 他还没吃完饭呢。

(彼はまだ食べ終わっていないよ。)

* b. 他还没吃过饭呢。

(22) a. 我的话还没说完呢。

(ぼくの話はまだ終わっていないよ。)

* b. 我的话还没说过呢。

例文(21)(22)の場合、動作が実行されはじめたことは認めているが、実行されはじめた動作がまだ完了点にまで達していないことを表す。当然、動作実行の起

動点から完了点までを「線」として捉えたわけである。

(23) a. 你现在吃没吃完饭?

(ご飯を食べ終わった?)

* b. 你现在吃没吃过饭?

(23)の場合、実行されはじめた動作が完了点にまで達したかどうかを問題にしているの、(21)(22)の場合と同様である。

4.2.7. 動作完了の可能を表す状語の場合

(24) a. 这些工作我一个人能干完。

(この仕事は私一人でするよ。)

* b. 这些工作我一个人能干过。

(25) a. 这么厚的小说你今天可以看完吗?

(こんなに厚い小説を今日中に読み終わられるの?)

* b. 这么厚的小说你今天可以看过吗?

(24)(25)の場合、動作の実行が可能かどうかを問題にしているわけではない。動作の実行が完了点にまで達することが可能かどうかを問題にしているのである。もちろん動作実行の起動点から完了点に達するまでを「線」として捉えたわけである。

例文(10)～(25)の場合、それぞれの状語は意味は違うが、述語動詞を修飾し、その動詞の表す動作の起動点から完了点までの過程を「線」として捉えている点で共通している。これらの状語の修飾を受けた継続動詞は“完”と結合して動作完了の意味を表すことができるが、“过”とは共起できない。

言い替えれば、図1で示すCという完了点を動作の起動から完了までの「線」状過程の「終点」として捉えた場合、“完”を用いることができるが、“过”を用いることはできない。

4.2.8. 動作完了の可能を表す補語の場合

(26) a. 饺子太好吃了, 再多做一点儿我也吃得完。

(ギョーザは大変美味しいから、もっと多めに作っても食べられるよ。)

* b. 饺子太好吃了, 再多做一点儿我也吃得过。

(27) a. 这么多酒我可喝不完。

(こんなにたくさんのお酒は、全部は飲めないよ。)

* b. 这么多酒我可喝不过。

(28) a. 这些工作你干得完干不完?

(これほどの仕事をやり終えることができるの?)

* b. 这些工作你干得过干不过?

呂叔湘 (1980.P140) は「動詞+過」の形は動結形の一種だが、普通の動結形とは異なる。間に‘得・不’を挿入できない。否定の言い方もない」と指摘しているが、その理由については説明していない。ここで、その理由について考えてみよう。

(26)の a. は「吃」という動作が実行されれば、「完」という完了点にまで達することができる」という意味を表し、(27)の a. は「喝」という動作が実行されても、「完」という完了点にまで達することはできない」という意味を表す。いずれも動作の実行から完了までの過程を「線」として捉えたからである。(28)の場合も同様である。

- (29) a. 你要的菜太多了, 我只吃得完一半儿。
(君の注文した料理は多すぎて、私は半分しか食べきれないよ。)
- * b. 你要的菜太多了, 我只吃得过一半儿。
- (30) a. 这么多工作, 今天我顶多干得完三分之一。
(こんなにたくさんの仕事なんて、今日頑張っても三分の一しかやれないよ。)
- * b. 这么多工作, 今天我顶多干得过三分之一。

(29)(30)の“一半儿”“三分之一”などは動作の実行から完了までの「線」状過程の一部分を示すものと言えよう。

4.3. コンテキスト、語用論的要因を加えた場合

統語論から言えば、例文(10)~(30)の状語或いは補語などの文成分の関与がない場合、(7)~(9)のように文法上継続動詞は“完”とも“过”とも共起できるが、語用論の立場から言えば、他の文成分がなくても、コンテキストによって“完”或いは“过”の一方としか共起できない場合もある。

- (31) A. 妈妈：小明，你这个国际电话都打了几个小时了！
(明ちゃん、一体何時間国際電話しているの?)
- B. 小明：我打完了，现在是背英语课文儿呢。
(*过)
(もう終わったよ。今は英語のテキストを暗記しているんだ。)
- (32) A1. 门卫：你找谁？(どなたに用事ですか?)
- B1. 来客：我找张总。(張社長にお会いしたいんですが)
- A2. 门卫：请稍等，我先打个电话问问他在不在。
(少々お待ち下さい。電話でちょっと確認いたします。)
- B2. 来客：我打过了，是他约我这个时间来的。
(*完)
(電話しましたよ。彼がこの時間に

来るように言ったんです。)

(31)の場合、Aは“打电话”を進行中の事象として、つまり「線」として捉えたもので、Bは同じように「線」として捉えて答えなければならない。

(32)の場合、Aは“打电话”を一つのまとまった事象として、つまり「点」として捉えたもので、Bは同じように「点」として捉えて答えなければならない。

5. まとめ

以上の分析・考察により、“完”と“过”の文法的使い分けを制約する要因と、両者の意味・特徴は次のようにまとめられる。

“完”と“过”の文法的使い分けは、動作の起動から完了までの過程をどのように捉えるかによって制約される。【動相相関図】で示すC1という完了点を動作の起動から完了までの「線」状過程の「終点」として捉えた場合、“完”を用い、その過程を一つのまとまった「点」として捉えた場合、“过”を用いる。

意味的には、“~完”は実行されはじめた動作が「線」状過程を経て、完了点に達したという意味を表す。“~过”はあるまとまった「点」として認識された動作が済んだという意味を表す。

動作の完了を表すものには、他に動相助詞の“了”、結果補語の“好”、“光”などがあるが、紙幅の制約があるので、“完”“过”とそれらとの相違については、稿を改めて論ずることとする。

【参考文献】

- 王 学群 1998. 「アスペクトと動詞の分類」, 『語学教育研究論叢 15』, 大東文化大学, 45-64 頁。
- 木村英樹 1997. 「動詞接尾辞“了”の意味表現機能」, 『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』, 東方書店, 157-180 頁。
- 胡裕樹・範曉 1995. 《动词研究》, 河南大学出版社。
- 張 岩紅 2006. 「結果補語“~完”と“~过”について」, 『中国語の補語』, 日中対照言語学会, 白帝社, 123-143 頁。
- 劉 月華 1989. 《汉语语法论集》, 現代出版社。
- 劉 勳寧 1998. 《现代汉语研究》, 北京語言文化大学出版社。
- 朱 繼征 1998. 「中国語の進行相について——“在~”と“~着”の文法的使い分けと意味分析を中心に——」, 『中国語学』第 245 号, 日本中国語学会, 102-111 頁。
- 朱 繼征 2000. 『中国語の動相』, 白帝社。